

農林水産技術推進会議「平成26年度第1回水産部会」外部専門家の意見概要

(1) 房総周辺海域に來遊するカタクチイワシの年齢と発生時期の推定（中間検討課題）

日野顧問

- ・千葉県海面だけの話ではないので、他県からサンプル供給を受けるだけでなく、調査の役割分担をして、連携してはどうか。

田中教授

- ・CPUEを調べるといつ資源が加入してきたか分かるので、調査項目に入れてはどうか。

川崎部長

- ・解析年以外も含め、海況による來遊動向の変化を考慮しながら、今後本研究成果を生かした方が良い。

(2) イワシ丸干し及びみりん干しの品質向上技術の開発（事前検討課題）

日野顧問

- ・開発した技術を知的財産にすることも意識して進めた方が良いのでは。
- ・製品開発だけでなく、市場開拓も必要。

田中教授

- ・現在の加工品はプロの需要があるため今後も残っていくが市場が小さい。裾野が広い一般消費者については、できるだけ簡単に食べられる状態にしないと受け入れてもらえないので、本研究でも留意して欲しい。

川崎部長

- ・加工業者と定常的に協力して進めないと成果を出すのは難しいと考える。
- ・協力できる加工業者が限定的なのであれば、技術の普及が難しくなるので工夫が必要。

(3) 干潟域を利用したアサリ天然種苗の中間育成技術開発（事前検討課題）

日野顧問

- ・ 技術開発後に実際に漁業者が網袋を使って稚貝確保ができるよう留意して欲しい。
- ・ 小さい課題が多数出てくる可能性がある中で、研究期間が4年間で十分なのか検討した方がよい。
- ・ 試験区が多い状況で、人的資源は大丈夫なのか検討した方がよい。

田中教授

- ・ 種苗を放流した時の生残がどの程度か、確認が必要。

川崎部長

(質問のみ)